

## 「理想の教師像」とは…

以前、ある雑誌に全国の校長先生方に「自分の学校にどんな先生が欲しいか」というアンケートを取った結果が載せられていました。その結果をみてみると…

- 出しゃばりはしないが、何事にも意欲的であり、失敗を恐れず自分なりの指導観・教育観を持って子どもたちと真正面からぶつかり、指導できる教師が欲しい。
- 教育はパッションである。たぎるような熱い情熱を心の奥に秘めている教師であって欲しい。また、他人の業績に感動し、他人から学ぶことを大切にしてほしい。
- 基礎学力向上と児童の安全確保には、学校を取り巻く地域諸団体との連携が不可欠である。児童や保護者、地域、さらには同僚の考えや状況をしっかりと把握できる力を持った教師が欲しい。
- 三つの目を持った教師がいたらいい。それは「自分を見つめる目」「周りを見渡す目」「先を見通す目」の三つである。その三つが兼ね備わった人がいれば、学校も随分よくなるのではないか。
- 教師は人間として、社会人として自立していること。その上で、教師としての資質能力としては、子どもに寄り添い向かい合い自立を目指して心と身体と行動を育てる教師、未来を生きる「学力」を育てる教師、組織の一員として、仲間や保護者、地域の人と協議できる教師。
- 「笑顔、元気、機動力を持つプラス思考教員」がいい。価値観多様化社会の中で、問題点ばかり考えるのでは進歩がない。自らの個性を磨くとともに寛容性と正しい倫理観を持つ教師が必要だ。
- 「授業力をつける教員」毎日が研修であり、その積み重ねが日々の授業に現れる。学習内容の専門性を深めるとともに、子どもの実態を教育的に把握する力が求められる。

というような答えが返ってきたということです。これらをまとめると、児童・保護者・地域、さらには同僚の考えや状況をしっかりと把握できる力と、そこでの判断力が不足してはいけないうことでしょうか。これはなかなか難しい話です。

## あなたにとって「理想の教師像」とは？

では、みなさんは、上のような「理想の教師像」に当てはまりますか。あるいは、皆さんにとって、「理想の教師像」とはどう考えますか。あなたはどんな教師を目指しますか。教員採用試験の面接で聞かれたかも知れませんね。

あらためて聞かれると、答えに窮するかも知れません。たとえば、あなたにとって理想の教師は誰ですか？ それはなぜですか。と考えると、それが理想の教師像かも知れません。

あるいは、親の目線で見ると、もっと分かりやすいと思います。

もしあなたに小学生の子がいるとしたら、どんな担任の先生に受け持ってもらいたいですか？これが究極の正解かも知れませんね。ここでも、いわゆるメタ認知が大切ですネ

例えば私だったら、一言で表すと（語弊があるかも知れませんが）、

子供だったら …、 誇らしく、他のクラスの子に自慢できる担任の先生  
親としては …、 いつも笑顔で、ことば優しく、中身厳しく、凜とした先生  
校長としては …、 頼りになる教師、当てにできる教師